

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童・生徒一人ひとりが、持てる力を発揮して地域社会に積極的に参加できるよう、児童・生徒の人権を尊重し、それぞれの教育的ニーズに適切に対応した教育・支援を行うことを基本として、社会生活に活かせる「知識・技能」の習得、自己決定や自己判断の基礎となる「思考力・判断力・表現力」の育成、生きる喜びにつながる「学びに向かう力・人間性等」の涵養を行う「児童・生徒一人ひとりを成長させる学校」をめざす。

「アクティブ住之江」＝めざす学校像

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応える教育活動を展開し、児童・生徒が主体的に学び、安心して成長していける学校
- (2) 特別支援教育のセンター的機能の発揮で地域貢献できる専門性の向上・蓄積・継承を実践し、情報発信する学校
- (3) 児童・生徒の自立・自己実現、社会参加に向け、保護者や関係諸機関と連携し、実効性ある取り組みを積極的に行う開かれた学校

2 中期的目標

1 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 児童・生徒一人ひとりの人権を尊重した指導・支援に努めるとともに、人権教育の充実を図る。
- (2) 児童・生徒の安心・安全につながる防災教育と、健康の保持増進につながる健康教育（食育・感染症予防を含む）を推進する。
- (3) 児童・生徒の生活背景や障がい特性をふまえた生活指導の充実と、学びに向かう環境づくりを推進する。

2 特別支援教育のセンター的機能の充実

- (1) 地域校との情報共有の基盤を形成し（令和3年4年）、本校が拠点となって校間の実践交流（令和5年6年）を促し、地域の特別支援教育充実における特別支援教育のセンター的機能を果たす（令和7年）。
- (2) 交流及び共同学習を推進し、居住地校との交流及び近隣地域の小学校、中学校、高等学校等との交流教育の充実を図る。

3 教育力・専門性の向上と組織的な学校運営

- (1) 新「個別の指導計画」による評価をカリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルに活かす。
- (2) ICT機器活用を含め、児童生徒が主体的に学べる効果的な学習について研究する。
- (3) 学校組織の機能性を高め、実行力の向上と効率化を図る。

4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) キャリア形成の視点で教育課程を改善し、児童・生徒一人ひとりが持てる力を地域社会で発揮できる進路指導につなげる。
令和4年度に効果検証を行った高等部コース制校内検定を、令和5年度令和6年度で定着・効果的運用し、令和7年度に小中高とつなげる実践としてまとめをする。
- (2) 児童・生徒の生きる力の育成をめざし、主体的に活躍できる場面や、多様な体験を通して学ぶ機会を効果的・効率的に持てるよう計画・実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○ <u>保護者アンケート結果で高評価を受けた項目について</u> 「運動会や学習発表会、校外学習、修学旅行などの行事は、子どもたちが楽しめるように工夫されている。」 (肯定的回答率 98.9% 前年度比較+24.3%) ・各行事を計画するにあたり、それぞれの担当者が、児童生徒の持てる力を発揮する場と捉え綿密に計画、実践した結果からと思われる。また、各学部行事の事前事後に各たより等で取組みの詳細や成果を発信した成果であると考えられる。 「学校は子どもの人権を大切にしたい安心・安全な教育活動を行っている。」 (肯定的回答率 98.4% 前年度比較+17.1%) ・教員が児童生徒に対しカウンセリングマインドをもって取り組んだ成果であると思われる。(教職員向けアンケートでは 96.3%) 「学校のホームページは、見やすく、地域への情報発信ができています。」 (肯定的回答率 92.4% 前年度比較+14.6%) ・学校ブログの更新数は、令和4年 125回 令和5年 128回（1月末現在）と、地道に更新を行ってきた成果が表れてきたものと思われる。</p> <p>○ <u>保護者アンケート下位評価項目（90%以下）について</u> 「子どもは、学校・家庭・地域で挨拶ができています。」(73.2%) ・児童生徒会による月1回の「あいさつ運動週間」、また日常的に学校生活の中での指導を行っているが、初めて会う人との挨拶に躊躇する子どももおり、今後も継続して取り組む必要がある。 「学校は、事故防止、地震や台風などの緊急時の対応に取り組んでいる。」 (88.5%) ・火災、地震、津波を想定した避難訓練や防犯訓練等の取組み、ヒヤリハット報告等により危機意識を高めている（教職員アンケートでは 88.7%）が、今後はその様子を保護者に周知することが更に必要と考える。</p>	<p>○第1回 令和5年6月23日（金） ・地域におけるセンター機能の発揮～支援後のアフターフォローの充実、更なるセンター校としての活躍に期待する。 ・個別の指導計画の新様式により、系統だった取組や支援がなされるものと思われる。 ・ICT機器の効果的な活用事例の広がり情報発信に期待する。 ・キャリア形成の取組と進路指導の充実～各コース（高等部コース制）での取組の充実が感じられる計画である。</p> <p>○第2回 令和5年11月24日（金） ・防災教育・防災対策～PTA・地域との連携を更に進めて欲しい。 ・個別の教育支援計画を活用したセンター的機能の充実～取組の広がりを実感。今後も地域との繋がりを大切に、地域校への支援を期待したい。また、校内の子どもへの支援の更なる充実も願う。 ・キャリア教育・進路指導の充実～社会自立Iコースについては、取組みの成果が感じられる。今後、生活自立コースへの充実を。 ・地域の様々な資源を更に活用し、子どもたちが地域とつながっていくことが重要。</p> <p>○第3回 令和6年3月1日（金） ・全体的に学校の取組の成果を感じることができる。 ・学校教育自己診断アンケートについて、教職員、保護者だけでなく児童生徒本人も対象とすることで、そこから見えてくる有効的な内容もあるため、ぜひ実施をすすめてほしい。また、児童生徒に実施するにあたっては、形態や方法も重要となるだろう。 ・個別の教育支援計画（A²）というハードがしっかりできてきたので、教員の実践のPDCAサイクルによる経験を基に、「実践感覚の向上」につなげてほしい。 ・子どもたちが自主的に進路先を探せたり、自己決定できたりするようなシステムづくりを考えていくことが今後の更なる発展につながると思われる。</p>

府立住之江支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 安全・安心な学校づくりの推進	<p>(1) 一人ひとりの人権を尊重した学校づくり</p> <p>(2) ア 防災マニュアルの改善と備品拡充</p> <p>イ 健康教育(食育・感染症予防を含む)を推進する</p> <p>(3) 自立活動、合理的配慮の視点を生活指導の充実につなげる</p>	<p>(1) ・教職員の人権意識の向上のため、人権教育委員会を中心にグループワークを含めた人権研修を実施する。 ・児童生徒の状況に応じた人権教育に計画的に取り組む。</p> <p>(2) ア・R4防災アドバイザー助言を活かし効果的な避難訓練実施と、防災備品の拡充を図る。</p> <p>イ・「学校保健計画」に基づき健康教育に取り組み、児童生徒が自ら健康維持や感染予防に取り組めるようにする。</p> <p>(3) ・生活指導事案の検討・対応に個別の教育支援計画を活用する。 ・問題の重篤化防止・予防の観点でネットトラブルや非行防止に関する学習等の充実を図る</p>	<p>(1) ・児童生徒の人権尊重に有益な教職員人権研修を2回実施する。 ・各学部、学年において年1回以上実施する。</p> <p>(2) ア・改善目標の公表と実施</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断における健康についての興味を持たせるように努めているかの肯定回答率90%以上を維持。[91.8%]</p> <p>(3) ・自己評価教員向け「児童生徒の情報交換を日常の生活指導に生かしている」積極的肯定40%[34.8%]。 ・ネットトラブルや非行防止等に関して効果的な教材を用いた学習を年2回以上計画的に実施できている。</p>	<p>(1) ・「SNSによる人権侵害(7/20)」「性的マイノリティー(1/16)」の2回実施。教職員の事後アンケートでは有意義であったとの意見が多数見られた。(○) ・アニメ「めぐみ」の活用(小5 中1 高1)や仲間づくり等を題材に人権学習を実施。人の心を思いやる子どもの感想が多く聞かれ、成果が感じられた。(○)</p> <p>(2) ア・改善目標を校内及びPTAで共有。保護者引き継ぎカードの修正、二次避難経路への実際の訓練、防災リュックの購入準備を実施。(○) イ・手洗い、歯磨き指導は校内動画放送を活用、検診指導では教材を工夫し実施した。保護者向け学校教育自己診断肯定回答率94.1%。(◎)</p> <p>(3) ・自己評価教員向け関係項目「よくあてはまる」回答率55.0%。(◎) ・前期は住之江警察に非行防止、後期は企業にスマホ安全教室の講演を依頼、実施した。子どもに分かりやすい内容で効果的であった。(◎)</p>
2 センター的機能の充実	<p>(1) 地域におけるセンター機能の発揮</p> <p>(2) 交流及び共同学習、体験学習の推進と交流教育の充実</p>	<p>(1) ・支援先校園でも本校のA²(エイツー=個別の教育支援計画)を活用して対象児童生徒の実態把握や支援体制構築につながるよう地域支援を行う。(コンサルテーションとして地域支援を実施)</p> <p>(2) ・居住地校交流の更なる充実を図る。 ・各学部で近隣校との交流教育を計画し、相手校と十分に打合せを行い、活動内容の充実を図る。 ・地域と連携し、活動内容を充実させる。</p>	<p>(1) ・A²活用研修を実施した複数の校園が参加する実践交流が開催できている。</p> <p>(2) ・居住地校交流R4を上回る実施。[18名] ・近隣校との交流教育を各学部で年1回以上実施打合せを重視し内容充実を図る。[計5回] ・本校児童生徒が地域住民との交流や、地域活動に参加する機会を維持し内容充実を図る。[R4は、伝承遊び交流、種花運動、アートビート、清掃活動]</p>	<p>(1) ・A²活用研修により実施した地域支援校は5件から27件と、22件増。地域支援後アンケートでは好意的評価が100%であった。「すみのえインクルーシブカフェ」は3回実施、のべ64校が参加し、参加校への事後アンケートでは100%が好意的回答であった。(◎)</p> <p>(2) ・教員用の詳細な説明資料の活用、好実践例、課題等をまとめ共有した。[22名の実施](◎) ・住吉川小学校2回、新北島中学校等2回、阿倍野高校1回と交流活動を実施。事前に綿密な打ち合わせを行い効果的に実施できた。(◎) ・昨年度までの地域活動交流に加え、高等部コース制授業の一環として地域の各種施設、企業の協力により事業所見学、清掃体験学習、事務体験学習、講演会を実施し、充実した教育活動を行うことができた。(◎)</p>
3 教育力・専門性向上と学校組織の整備	<p>(1) カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを作る。</p> <p>(2) ICT機器を活用した主体的な学習につながる効果的な学習について研究する</p> <p>(3) 学校組織の整備と機能の充実</p>	<p>(1) ・「新個別の指導計画活用」「シラバス改善に向けた学部検討」「アクティブラーニングを意識した授業改善に向けた教科会」を計画的に実施し、実施状況の確認を行う。</p> <p>(2) 1人1台端末を効果的に活用し児童生徒が主体的に学ぶ授業実践に研究的に取り組む。活用成果を個別の指導計画等で保護者に伝える。</p> <p>(3) ・学校課題への取り組み方を学校運営会議等で検討し実行に移す。 ・長時間勤務となる原因ごとに効果的な対応を講じ、勤務時間外在庁時間抑制につなげる。</p>	<p>(1) ・前期、後期で各1回以上実施。 ・自己診断保護者向け「学習内容は子どもに合っている」積極的肯定回答50%以上[44.0%]</p> <p>(2) ・自己診断保護者向け「1人1台端末を効果的に活用」肯定回答50%以上、わからない30%以下[44.0%、45.6%] ・端末利用推進リーダーを中心に、先行事例等を参考に授業実践例を各学部で3以上校内報告。</p> <p>(3) ・自己評価教員向け「安全確保、事故防止、緊急時対応等に組織的に取り組み成果」積極肯定を40%[37.4%]。 ・時間外在庁80時間超の延べ人数がR4を下回る[5名]</p>	<p>(1) ・それぞれに説明会、検討会等各1回実施し、共通理解をもつことができた。3観点評価について更に理解を深める必要がある。(○) ・自己診断保護者向け関係項目積極的肯定回答[56.1%]。小学部72.9%、中学部51.8%、高等部44.6%と年齢が上がるにつれ否定的意見が増加する傾向について今後分析が必要である。(○)</p> <p>(2) ・自己診断保護者向け関連項目肯定回答56.1%、否定的回答7.2%と向上。授業参観等で活用状況が確認されたためと思われる。(◎) ・ICT活用事例を学校ブログで公開し、教職員及び保護者にも報告した。小学部6例、中学部3例、高等部3例報告した。(○)</p> <p>(3) ・自己評価教員向け関係項目積極肯定回答率は44.0%と向上。全肯定的回答率は93.6%。(○) ・時間外在庁80時間超の延べ人数は令和6年3月時点で4名であった。(△)</p>

府立住之江支援学校

<p style="text-align: center;">4 自立と社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) キャリア形成を図り進路指導を充実させる</p> <p>(2) 児童・生徒の生きる力の育成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部コース制社会自立Ⅱ「サービス」「ビルメンテ・清掃」で検定を実施する。 ・自立活動の内容とキャリア形成の関係を整理する。 ・進路先の情報を保護者が得られるよう説明会・見学会開催に努める。 ・進路希望調査等により保護者・本人の希望を十分に把握し、現場実習を行い、進路に繋げる。 ・現場実習や進路懇談等の取り組み内容や時期を検討し、より効果的な進路指導を行い、生徒の適性に合った進路選択の実現をめざす。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会活動等の活性化を図り、全校集会や校内展示に積極的に関わる等、児童・生徒がより主体的に活躍できる機会とする。 ・各行事の充実に向け、運動会や学習発表会等の行事、社会体験や校外活動等が、児童・生徒が見通しを持てることを含めて計画するとともに、実施前から便りなどで情報発信し、児童生徒が家庭でも行事の見通しを持てるようにする。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アビリンピック大会と同等の検定を実施。生徒の自己評価・相互評価を実施。校内検定評価の精度向上のためマニュアルを策定する。 ・個別の教育支援計画に、キャリア形成の目標・成果が記載されている。 ・事業所合同説明会を開催。PTA連携で2施設以上の見学実施。保護者向け学校教育自己診断における「学校は、本人・保護者と連携した進路指導に努めている」の積極的肯定回答がR4を上回る。[50.5%] ・適切な進路決定、就職希望者全員の就労を継続。[100%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、中学部・高等部の生徒を対象とした児童生徒会や各種委員会の活動を活性化し、委員会での活動内容を全校集会で報告できている。展示や映像で児童生徒の作品や主体的な活動が情報発信され、日常的に更新されている。 ・保護者向け学校教育自己診断における「子どもは、運動会・学習発表会などの行事を楽しみにしている」の積極的肯定回答を50%維持。[52.2%] 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者で同等の基準による評価となるようマニュアルにより共通理解を図り、緻密な評価とした。校内技能検定終了後に評価表を整理し生徒に返却、自己評価、相互評価を実施した。(◎) ・個別の指導計画 自立活動様式に「本人の思いやニーズ」欄を設定し、記載できるようにしたことにより自己理解を深め、キャリア形成への支援に努めた。(◎) ・事業所説明会を7/1実施。施設見学は3つの施設と目標を上回って実施できたが、保護者向け学校教育自己診断の関係項目「よくあてはまる」の回答は50.3%とあと一歩及ばなかったが肯定的回答率は94.0%と好評価であった。(◎) ・8月に高2、3でキャリア支援委員会を新たに実施、共通理解を図り、きめ細やかな進路指導に繋がった。企業就労希望者当初7名から決定6名となったが、実習後の進路希望変更によるものであるため、概ね達成したといえる。(◎) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会を計画通り実施し、児童生徒会や各委員会による活動状況の発表を行った。各活動を校内動画放送システムでも配信する等、児童生徒の意欲的な活動に繋がった。児童生徒会による意見BOXの設置や月1回のあいさつ運動等、活発な活動ができた。(◎) ・保護者向け学校教育自己診断関係項目の積極的肯定回答は69.0%と大きく向上した。各学部行事の事前事後に各たより等で取り組みの詳細や成果を発信し、工夫を行った成果であると考えられる。今後は日常の教科学習等とのバランスを考慮して、行事に取り組むための特別時間割の日数を減らし、行事を精選していくことが課題である。(◎)